

「不動産のための応用経済（ミクロ経済学Ⅱ）」'08 レジューメ N0.3

クラス担当教員名 ^{※1}	学籍番号 ^{※2}	氏名 ^{※2}

※1:履修登録したクラスの担当教員名を書く

では、いままで学習してきた内容を踏まえて、イダ君のぼやきを経済学的に検証してみましょう。ポイントは、

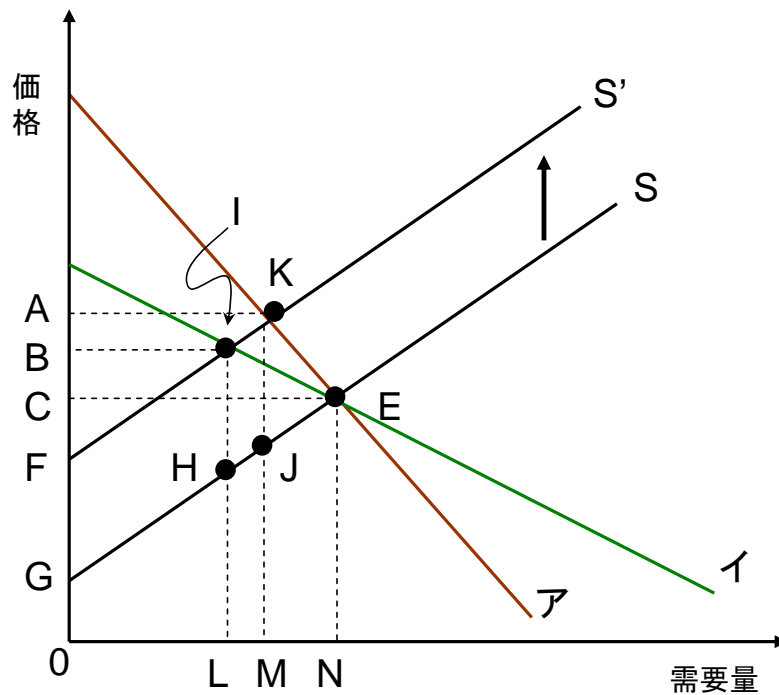
- ① 税金を負担するのは消費者だけなのか
- ② 酒とかたばことか、「とりやすい税」に課税することの意味
- ③ 「不公平」について

の3点です。

まず①について考えてみましょう。ミクロ経済基礎（ミクロ経済学Ⅰ）でも学習しましたし、練習問題でも復習したように、余剰という観点から考えると、税金を負担するのは消費者だけではないですね。生産者も負担していますし、**社会全体で、「死荷重」というコストも負担している**のでしたね。

次に②について考えてみましょう。税金を「とりやすい」という意味はいろいろありえるでしょうが、ここでは、「課税によって市場均衡価格が上昇してもあまり需要量が減少せず、税収をあげやすい」と考えることにしましょう。課税によって需要量が大幅に減少してしまえば、税をかけてもあまり税収があがりませんよね。そういう意味では、塩や味噌などの生活必需品は、「税をとりやすい」といえるでしょう。課税によって価格が上昇したとき、酒やたばこはある程度我慢できるかもしれませんが、生活必需品などはほとんど需要量が減らないことでしょう。

これを、需要の価格弾力性という概念を使いながら考えてみましょう。「価格が上昇しても需要量があまり減少しない」というのは、「**需要の価格弾力性が小さい**」ということを意味します。下の図は、需要の価格弾力性が比較的小さい場合の需要曲線「ア」と、需要の価格弾力性が比較的大きい場合の需要曲線「イ」の2つの需要曲線を描いています。現在の市場均衡点は点Eであるとします。



ここで、税が課せられたとしましょう。すると税額分だけ供給曲線は上にシフトします。図ではSからS'へシフトします。課税の影響を、以下の表を埋めながら考えてみましょう。

	需要曲線 ア	需要曲線 イ	比較
価格弾力性			アの方が小さい
課税後の均衡点	点	点	
課税後の均衡価格	点	点	アの方が
課税後の需要量	点	点	アの方が
税収			アの方が
課税による死荷重			アの方が